

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161	
法人名	医療法人忠友会	
事業所名	グループホーム武田の里	
所在地	山梨県韮崎市神山町北宮地8	
自己評価作成日	令和元年9月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年10月31日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護、居宅支援事業所などを併設しています。自然に囲まれた環境のため住宅が少なく、地域住民との交流は少ないですが、多機能な事業所、また医療法人としての特性を活かし、日々のケアにあたっています。利用者様の「その人らしさ」を大切にし、グループホームへ入居してもご自宅と同じように自分らしい自由な生活が送っていただけるようにと職員が一体となって取り組んでいます。近年においてはホームで最期を迎える方も多く、併設診療所と連携しながら看取り介護に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は鉄筋2階建ての1階と2階の2ユニットで自然豊かな閑静な場所ではあるが、韮崎駅にも徒歩10分と近く周辺には市役所や中学校、工場も点在している。隣接した中学校に管理者がキャラバンメイトとして招待を受け講演し、生徒の職場体験にもつなげている。法人のクリニックや訪問介護、通所リハビリテーション、居宅介護事業が併設しており協力体制が築かれている。医療に於いては、クリニックとの連携があり、利用者は安心した生活を送ることができている。理念にある「その人らしく生活できるようお手伝いさせていただきます」を職員は実践して、朝食等時間を決めてしまわずに利用者一人ひとりに合わせた生活の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム武田の里**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく価値						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	職員が決めた事業所理念「その人らしく生活できるようお手伝いさせていただきます」を事業所の玄関やリビングに掲示し、普段からその人らしく暮らせるように利用者一人ひとりに合った支援を心がけている。また、ミーティングでも日々の支援を振り返り、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。近所の方に畑のことで助言をもらうこともある。	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。近所の方に畑のことで助言をもらうこともある。	敷地内に畑があり近所の人が肥料の与え方を教えてくれたり、採れた野菜など持って来てくれる。地域の花火大会の際には、併設されている法人の施設に近隣の人達たちが集まり地域とのつながりの場ともなっている。障害者施設や中学生の職場体験、傾聴ボランティア等の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	市の介護課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。行政関係者や民生委員、家族等が参加している。事業所からの報告とともに、事例を挙げて参加者から意見をもらいケアに繋げている。家族からの要望や民生委員から地域の高齢者に対する対応についての質問等を受け有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。地域ケア会議等でも意見を挙げている。関係良好である。	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。地域ケア会議等でも意見を挙げている。関係良好である。	市主催の地域ケア会議では地域の課題を挙げて意見交換をしている。市担当者は運営推進会議への参加もあり事業所の実情や取り組みは伝えている。入居に関する問い合わせが多くあり入居した後の利用者の様子について聞かれる等、頻りに連絡を取りながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もしないように、ケアしている。スピーチロックも同様。	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もしないように、ケアしている。スピーチロックも同様。	身体拘束委員会があり、年1回は「身体拘束ゼロの手引き」を基に職員研修を実施し、身体拘束禁止の対象となる11項目の具体的な行為の理解を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠についても日中は開放して自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に關しても疑わしい場合については、地域包括支援センターなどに相談するようになっている。	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に關しても疑わしい場合については、地域包括支援センターなどに相談するようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようお手伝いしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようお手伝いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム武田の里**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いつらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いつらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	家族等が面会に訪れる時には、声掛けをして何でも言ってもらえるような雰囲気心がけている。また、玄関には意見箱を設置して意見や要望を表せる機会をつくっている。居室のエアコン修理や県外への外出、終末期でも好きだった食べ物を食べさせたい等家族からの要望を受けて対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらっている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。スタッフの意見は必ず伝えている。	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらっている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。スタッフの意見は必ず伝えている。	法人全体の会議が2か月に1回あり、事務長には職員の意見や事業所の実情を伝えている。職員の報酬改善を要求したり、物品の購入等現場職員の声を繋げる対応をしている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り意見、要望を聞いている。要望があった勤務体制を改善をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。夜勤回数が多い者には手当の改善などを行った。	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。夜勤回数が多い者には手当の改善などを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症実践者研修受講も動めている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症実践者研修受講も動めている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会、市内施設代表者の研修、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようになっている。	市の活動や県のグループホーム協会、市内施設代表者の研修、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようになっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居前に本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じようにその人らしい暮らしが継続できるように、支援している。	入居前に本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じようにその人らしい暮らしが継続できるように、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをさせていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをさせていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム武田の里**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居前に通っていたデイサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようになるなど、その人ごとに対応している。	入居前に通っていたデイサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようになるなど、その人ごとに対応している。	以前から利用している美容院やお墓参り、仲間の人達が集まる無尽にそれぞれ家族の協力を得て出かけている。携帯電話を持っている利用者もいて、電話を掛けて会いに来てもらったり、入居前に利用していたデイサービスや県外の会いたい人に会いに行くなど繋がりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、その人らしい生活のあり方は常に模索している。	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、その人らしい生活のあり方は常に模索している。	午前中は職員と一緒に作業する時間があり、会話の中から思いや意向の把握をしている。また、お茶を飲みながら一人ひとりとゆっくり話をする機会もあり、自分の好きな食べ物の話やテレビを見ながら話す中で新たに思いに気付くことがある。必要時には引継ぎノートに書いて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからもそれまでの生活習慣などが大きく変わることないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからもそれまでの生活習慣などが大きく変わることないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。スタッフも率先して提案している。	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。スタッフも率先して提案している。	入居時に法人の病院で健康診断を行い、医師から受けた食事や薬等のアドバイスと利用者、家族の生活に対する意向を反映して介護計画を作成する。3か月毎にモニタリングし、見直しを行うが日々の関りの中で変化が生じた場合には、関係者から意見、要望を聞き現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム武田の里**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリな ども含めて、サービスがグループホーム内だけで 終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心が けている。	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリな ども含めて、サービスがグループホーム内だけで 終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心が けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読 書が好きな方には地域の図書館を利用してもら うなどしながら、豊かな暮らしができるように支援 している。	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読 書が好きな方には地域の図書館を利用してもら うなどしながら、豊かな暮らしができるように支援 している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するの ではなく、これまでのかかりつけ医にも通ってい ただき、入居中の様子などをケアマネより医師に随時 伝えている。とくに重度認知症の場合には専門医と 連携している。	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するの ではなく、これまでのかかりつけ医にも通ってい ただき、入居中の様子などをケアマネより医師に随時 伝えている。とくに重度認知症の場合には専門医と 連携している。	以前からのかかりつけ医を継続できる旨家族に伝えて いるが、半数の利用者が併設している病院を家族等が 希望して受診している。かかりつけ医は、家族同行のた め日頃の様子を手紙に書いて渡している。医師からは 手紙又は電話で返答があり、情報の共有をしている。歯 科の訪問診療も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	看護資格を持った職員もいるため、専門的に体調 管理できるように努めている。緊急時には併設診 療所の医師や看護師にも対応していただいている	看護資格を持った職員もいるため、専門的に体調 管理できるように努めている。緊急時には併設診 療所の医師や看護師にも対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。あるいは 、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談 員や看護師から、正確な情報をいただくようにし ている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも 多く、関係は良好である。	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談 員や看護師から、正確な情報をいただくようにし ている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも 多く、関係は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に 全員に説明しているほか、実際にその時がきた場 合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの 方針を確認し合うようにしている。これまで大勢の 看取りをおこなっている。	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に 全員に説明しているほか、実際にその時がきた場 合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの 方針を確認し合うようにしている。これまで大勢の 看取りをおこなっている。	入居時に重度化や終末期の対応について説明を行っ ているが、状況が変化した時やその時になった際に、本人 や家族等の意向を踏まえ、医師や看護師を交えて話し 合いの場を持ち方針を決めている。医師や看護師が待 機し医療連携体制が整っているため、事業所での看取り を希望した場合は、以前からの「かかりつけ医」から併設 の病院に替わることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い 、実践力を身に付けている	研修などを通じて応急法について学んでいる。判 断が難しい際には併設診療所の医師、看護師から も助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるよ うに努めている。	研修などを通じて応急法について学んでいる。判 断が難しい際には併設診療所の医師、看護師から も助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるよ うに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	地震、火事、水害等に備え定期的防災訓練をお こなっている。近隣住民にもいざという時のお願い はしている。	地震、火事、水害等に備え定期的防災訓練をお こなっている。近隣住民にもいざという時のお願い はしている。	年2回、防災訓練を実施して避難誘導ができるように備 えている。早朝に夜間を想定した訓練も実施している。 水害時は1階の利用者を2階のリビングに誘導するよ うに想定している。消防署の立ち入り検査時に、利用者 の様子や事業所内も把握しており、災害時には消防署と の協力体制ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけ を行うように心がけている。居室にうかがう際にもノ ックをしたり、声をかけてから行っている。また出来 るだけ苗字でお名前を呼んでいる。	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけ を行うように心がけている。居室にうかがう際にもノ ックをしたり、声をかけてから行っている。また出来 るだけ苗字でお名前を呼んでいる。	居室やトイレに入る時は、声を掛けるようにして日頃から 利用者の状況や気持ちを理解して寄り添うように努めて いる。おむつ交換する時も周りから見えないように注意し ながら行っている。入浴も同性介助を希望する人には尊重 した対応をしている。個人情報に関する書類は保管場所 に管理している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム武田の里		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員、生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。画一的なレクなどの強制もしていないため、一人ひとりがそれぞれのペースで生活をしている。	全員、生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。画一的なレクなどの強制もしていないため、一人ひとりがそれぞれのペースで生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねて用意させていただいたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。ご家族の協力も得ながら、好きな物を楽しく食べられるように心がけている。	食べたい物を尋ねて用意させていただいたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。ご家族の協力も得ながら、好きな物を楽しく食べられるように心がけている。	屋食は併設している。デイケアから主菜、副菜が届き盛り付けをしている。事業所でご飯は炊いて、味噌汁も作っている。朝食と夕食は献立を決めないで利用者に聞いて、買ってある材料で職員が調理している。献立はその都度書いて、献立表としている。利用者も出来ることは職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日に食べた物、摂取した水分量を確認し、医師とも相談しながら栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。	その日に食べた物、摂取した水分量を確認し、医師とも相談しながら栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。	歯磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がない方には時間で誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	尿意がない方には時間で誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	利用者一人ひとりに合った時間にトイレ誘導して、排泄チェック表に記入してパターンを把握している。その時の状況に合わせてリハビリパンツやパットを使用するようにしている。車椅子の利用者も誘導して、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、職員が一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外ではできるだけ希望に添えるように心がけている。元気な方では自分でシャワーをして出かける方もいる。	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、職員が一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外ではできるだけ希望に添えるように心がけている。元気な方では自分でシャワーをして出かける方もいる。	基本的には、週2回を目安にしている。特に曜日は決めないで利用者のその日の希望を確認して、午後から入浴している。入浴日の間隔が空いてしまった時には、声掛けの工夫で入浴を試みている。ポディーソープやシャンプー等好みの物を使用している利用者もいる。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム武田の里**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣に近い状態で過ごせるように、自由にしていただいている。	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣に近い状態で過ごせるように、自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化への確認に努めている	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応や副作用も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応や副作用も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に同じレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたこと、好きなことを継続できるように支援している。	全員に同じレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたこと、好きなことを継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行けるように支援している。元気な方ではタクシーで自由に出かける方もいた。	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行けるように支援している。元気な方ではタクシーで自由に出かける方もいた。	日常的には、周辺を散歩したり併設している病院に新聞を持ちに行くなど戸外に出る機会を作っている。また、前庭に出てお茶を飲んで気分を変えたりしている。家族の協力で外食に行ったり、県外の会いたい人に会いに行くなど希望を聞いて外出の支援をしている。季節を感じる様子の花見や紅葉見物など車椅子の利用者も一緒に出掛けられるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預からせていただいているが、買い物かしたいときにはそこからお渡しして好きな物が買えるように対応している。自動販売機などには一緒に買いに行くこともある。	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預からせていただいているが、買い物かしたいときにはそこからお渡しして好きな物が買えるように対応している。自動販売機などには一緒に買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけたい方には使っていた。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。	電話がかけたい方には使っていた。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や皆が作った作品などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	季節の花や皆が作った作品などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	1階と2階の2ユニットで共通の作りとなっている。入り口を入ったところがリビング兼食堂になっている。キッチンともつながり開放的である。廊下やリビングには利用者作った季節ごとの作品や習字が飾られている。また、廊下に椅子が置かれ利用者は、窓越しに通行する車や見慣れた景色を見て住み慣れた場所で安心した生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごすのは当然と考えている。	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごすのは当然と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。遠慮して持ち込まない方もいるが、自由に持ち込んでいただきたいとお話している。	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。遠慮して持ち込まない方もいるが、自由に持ち込んでいただきたいとお話している。	ペット、エアコン、カーテン、押し入れ式のクローゼットが備え付けである。プライバシーに配慮した居室にはテレビ、タンス、ソファ、位牌、写真、化粧鏡等が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地よく暮らせるようになっている。また、フローリングに畳を敷いて和室にすることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけ自分で動けるようにと支援している。	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけ自分で動けるようにと支援している。		